

<対策のポイント>

米の需要減により米価が低迷する一方、肥料等の生産資材価格の高騰等によって、稲作農業は大変厳しい状況に置かれています。今後、輸出等の新たな需要への的確な対応を通じて需要拡大を図りつつ、農業者の所得を確保し、稲作農業の体質を強化するため、米の超低コスト生産、米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向け、加速させる環境の整備及び取組を支援します。

<事業目標>

- 担い手の米生産コスト (9,600円/60kg)
- 米の需要拡大 (消費量51kg/年・人 [令和12年度])

<事業の内容>

1. 米の超低コスト生産支援

米の輸出拡大等に向けて、農業者や地方自治体、農業団体など地域の関係者が連携して、大幅なコスト低減を目指す産地に対して、**コスト分析やコスト低減に係る取組状況の把握、課題抽出、必要となる技術実証、人材育成等の取組を総合的に支援**します。

(補助率：定額 (上限840万円/コンソーシアム))

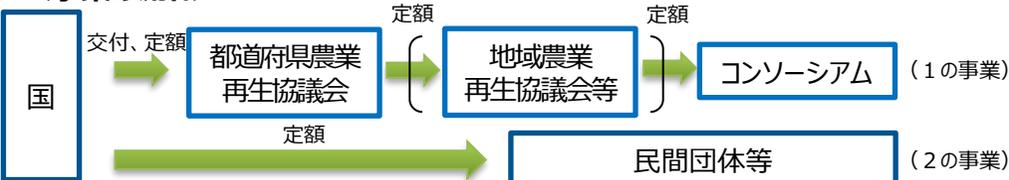
- ※ 1 事業実施期間は最長3年間とします。
- ※ 2 1年目及び2年目の年度末に各産地の取組状況や成果について中間評価を行い、翌年度の支援対象産地を決定します。

2. 米の付加価値向上・流通合理化支援

多様な消費者・実需者ニーズに対応するため、**生産から消費に至るまでの情報の連携 (スマート・オコメ・チェーン) による米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向けた取組等を支援**します。

(補助率：定額)

<事業の流れ>



<事業イメージ>

米の超低コスト生産支援



<超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の生産コストの現状把握・分析
- コスト低減に係る取組状況の把握、課題の抽出
- コスト削減の技術等実証、人材育成
- 取組成果の検証と改善策の検討

米の付加価値向上・流通合理化支援



スマート・オコメ・チェーンを活用した、米の付加価値向上・流通合理化のモデル創出に向けた関係者によるデータ連携の実証

【お問い合わせ先】 農産局穀物課

1の事業：03-6744-2108
2の事業：03-6744-2184

米の生産コスト低減に向けた取組について（令和5年度実証事業）

令和5年度『稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業』取組事例

- 事業実施主体：愛知県米トータル生産コスト低減対策協議会（県、4市町村、JA、農業者（5経営体）等）
- 水稲作付面積：148ha（R5年度）

コスト低減効果：R2年度 14,082円/60kg

⇒ **R5年度 11,019円/60kg（▲3,063円/60kg）**

- 主な取組内容【R5年度】（取組2年目）

技術実証に係る取組

『V溝直播＋止水板＋水位センサー＋自動給水装置』

⇒育苗時間削減、作期分散による生産性向上、
水管理見回り回数減少による労働費の削減
(慣行：3.9回/週 ⇒ 設置後：1.7回/週)



『AgriLook（生育予測診断システム）＋衛星画像診断』による適所施肥

⇒生育不良圃場の把握により、追肥ほ場では、単収が向上
コシヒカリ 追肥なし：466kg/10a、追肥あり：528kg/10a
あいちのかおり 追肥なし：565kg/10a、追肥あり：640kg/10a



生産コスト分析、人材育成に係る取組

コンサルタントによる

- ✓ コスト・経営分析
- ✓ コスト低減・経営改善指導研修

生産者の

コスト意識向上

生産コスト低減の検討、成果普及に係る取組

低コスト生産のための改善検討会の開催、取組成果報告会の開催

- 事業実施主体：佐賀県産米生産コスト低減対策協議会（県、3市町、農業者（5経営体）等）
- 水稲作付面積：73ha（R5年度）※中山間地を含む

コスト低減効果：R4年度 13,294円/60kg

⇒ **R5年度 12,313円/60kg（▲981円/60kg）**

- 主な取組内容【R5年度】（取組1年目）

技術実証に係る取組

『ドローン播種』

⇒種まき、育苗、苗移動、田植え時間の削減
(慣行：228分/10a ⇒ 実施後：55分/10a)



『水位センサー』

⇒田植え前水管理、田植え後水管理時間の削減
(慣行：150分/10a ⇒ 実施後：37.5分/10a)



『ラジコン草刈機』

⇒堤、畦畔の草刈り時間の削減
(慣行：40分 ⇒ 実施後：28分)



『ロボットトラクター』

⇒トラクター作業時間の削減
(慣行：90分/10a ⇒ 実施後：45分/10a)



生産コスト分析、人材育成に係る取組

コンサルタントによる

- ✓ コスト・経営分析
- ✓ コスト低減・経営改善指導研修

生産者の

コスト意識向上

生産コスト低減の検討、成果普及に係る取組

低コスト生産のための改善検討会の開催、取組成果報告会の開催



米の生産コスト低減により、

- 主食用米の米価変動に耐え得る生産
- 輸出等の新市場開拓用米の可能性を拡大

■ 今後の課題

主食用米の生産を集約し、他作物の生産を拡大